



連携室通信

発行：帯広中央病院 地域連携室

2022年度インフルエンザ予防接種について 一般診察を受けられている方は、随時接種します

実施期間：令和4年10月17日（月）～令和4年12月末日まで
 実施料金：3,300円（助成対象者以外の方）
 時間：10：00～11：30・14：00～16：00

高齢者などの行政よりの補助（助成）の内容

《帯広市の助成対象》

その他管内町村とも委託契約しております。

助成対象期間：令和4年10月1日～令和4年2月28日

（*町村により時期が異なる場合があります）

この期間以外は助成対象になりません。

※但し、ワクチンがなくなり次第終了としますので、助成期間とは違います。

○65歳以上の市民の方：負担金1,100円

○60～64歳で障害1級程度の障害のある市民の方：負担金 1,100円

○生活保護の市民の方（65歳以上もしくは上記2）の方：負担金なし

○15,18歳の市民の方（中3・高3）受験生を対象：負担金1,800円

※保健センターや市役所から専用用紙（委任状等）を持参して下さい。

○小学生 ※2回接種 2,500円

（12歳と13歳の接種量と料金について）

中1でも12歳なら、小学生と同じ扱って、2,500円の2回接種となります。

○中学、高校1,2年 ※1回接種（3,300円・・・一般扱い）



他町村の助成、インフルエンザ予防接種について

ご不明な点は**0155-24-2200**へお問い合わせ下さい。



ピロリ菌検査の方法とご案内

ピロリ菌感染(ヘリコバクター・ピロリ(*Helicobacter pylori*)感染)を調べる検査はさまざまで、施設によって実施される検査が異なる場合があります。大まかには、胃カメラ(上部消化管内視鏡)を必要とし、患者さんの体への負担が大きい検査と、胃カメラを必要とせず患者さんの体への負担も少ない検査に分けられます。

※ピロリ菌の検査や除菌は、胃カメラ(胃内視鏡検査)で胃潰瘍、十二指腸潰瘍や慢性胃炎を認めた場合に保険診療が適応となります。そのため、胃カメラなしでは保険診療でのピロリ菌検査および治療はできません。

○胃カメラを必要とする検査

迅速ウレアーゼ検査

ピロリ菌が持っているウレアーゼという酵素が試薬内の尿素を分解してアンモニアを生じさせることを利用した方法です。生じたアンモニアによりpH指示薬に色調変化がおこり、ピロリ菌が感染しているかどうかを短時間で判定することが可能です。

鏡検法

採取した胃の粘膜にさまざまな染色を行い、顕微鏡下でピロリ菌を検索するとともに組織学的な評価を行います。

培養法

検体をすりつぶして5~7日程度培養し、ピロリ菌がいるかどうかを調べます。鏡検法や培養法は菌そのものを確認できる利点がありますが、採取した部分にピロリ菌がない場合には偽陰性となることもあるため注意が必要です。

○胃カメラを必要としない検査

尿素呼気試験

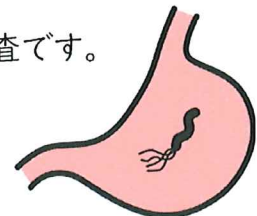
検査用の薬を服用する前と後に呼気を採取する簡便かつ精度の高い検査です。

抗体検査

血中や尿中のピロリ菌に対する抗体を調べます。

糞便抗原測定

糞便中のピロリ菌抗原の有無を調べる検査です。



ピロリ菌は胃がん発症の主因であり、親から子供に感染する可能性があるため、ピロリ菌を除菌することは、胃がんを予防する効果があります。それと同時に、子供への感染を防止することができます。除菌による胃がんの予防効果は胃炎の程度が軽いほど高く、若い人ほど高いということが分かっております。

また、親になる前に除菌することで、子供への感染をブロックできます。親になる前の20歳頃あるいはそれ以前に一度ピロリ菌の検査を受け、ピロリ菌に感染している人は除菌すると良いです。ピロリ菌に感染している方が除菌をすることでピロリ菌が撲滅され日本人の胃がん発症がかなり減少することも期待されます。

当院でもピロリ菌に関する診療を行っております。

気になる方はお気軽にご相談ください。



社会医療法人恵和会 帯広中央病院

〒080-0017 帯広市西7条南8丁目11-1

TEL 0155-24-2200 FAX 0155-67-5608

ホームページアドレス <https://obihiro.keiwakai.jp/obihirochuo-hosp>

地域医療連携室

TEL 0155-67-5638 FAX 0155-67-5791